

資料番号

1

令和6年6月28日

課名 農林水産局 農林水産総務課

担当者 課長 和久井

内線 3510

令和5年度指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

1 要旨

指定管理者制度を導入している次の施設について、管理運営状況を報告する。

2 対象施設

施設名	指定管理者	ページ番号
広島県栽培漁業センター	(一社) 広島県栽培漁業協会	2
広島県緑化センター・広島県立 広島緑化植物公園(ひろしま遊 学の森)	ひろしま遊学の森管理グルー プ	5

令和5年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

水産課

1 施設の概要等

施設名	広島県栽培漁業センター		
所在地	竹原市高崎町字西大乘新開 185 番地の 12		
設置目的	魚介類の種苗生産、配布等による栽培漁業の振興		
施設・設備	管理棟、貝類棟、飼育棟(50t×16 水槽)、新魚種種苗生産棟(50t×8 水槽)等		
指定管理者	5 期目	R 3. 4. 1～R 8. 3. 31	(一社) 広島県栽培漁業協会
	4 期目	H28. 4. 1～R 3. 3. 31	(一社) 広島県栽培漁業協会
	3 期目	H23. 4. 1～H28. 3. 31	(一社) 広島県栽培漁業協会
	2 期目	H20. 4. 1～H23. 3. 31	(社) 広島県栽培漁業協会
	1 期目	H17. 4. 1～H20. 3. 31	(社) 広島県栽培漁業協会

※平成 25 年 4 月 1 日から一般社団法人に移行。

2 種苗生産量

生産状況	年度		生産目標尾数	生産実績尾数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	5 期	R5		14,693 千尾 (1,500 千枚)	15,055 千尾 (1,265 千枚)	4,634 千尾 (△157 千枚)
R4			8,636 千尾 (1,500 千枚)	10,421 千尾 (1,422 千枚)	679 千尾 (70 千枚)	1,785 千尾 (120.1%) (△78 千枚 (94.8%))
R3			9,446 千尾 (1,500 千枚)	9,742 千尾 (1,352 千枚)	195 千尾 (△92 千枚)	296 千尾 (103.1%) (△148 千枚 (90.1%))
	4 期平均 H28～R2		9,550 千尾 (1,500 千枚)	9,547 千尾 (1,444 千枚)	720 千尾 (1,444 千枚)	△3 千尾 (100.0%) (△56 千枚 (96.3%))
	3 期平均 H23～H27		8,624 千尾	8,827 千尾	△2,973 千尾	203 千尾 (102.4%)
	2 期平均 H20～H22		11,343 千尾	11,800 千尾	△1,099 千尾	457 千尾 (104.0%)
	1 期平均 H17～H19		12,622 千尾	12,899 千尾	△1,862 千尾	277 千尾 (102.2%)
	H16 (導入前)		13,790 千尾	14,761 千尾	—	—
増減理由	○生産目標尾数は、漁業者の需要を反映するため、毎年度事業計画を立てている。 ○生産実績尾数については、三倍体カキ（一粒）を含めた魚種で目標を上回る生産があり、計画尾数を達成できた。 なお、三倍体カキ（コレクター）は目標を下回る生産となった。					

※第 4 期、第 5 期の () 内は三倍体カキのコレクター生産枚数 (内数)。

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	種苗生産配布検討会を開催して、漁業者のニーズ等を把握	(公財) 広島県漁業振興基金、広島県漁業協同組合連合会、広島県内水面漁業協同組合連合会
	【主な意見】	【その対応状況】
	健苗の生産	飼育環境及び餌料系列の変更による健苗生産
	遊漁に適したアユの生産	遊漁に適した人工種苗の研究
生残率の向上	飼育密度や飼育方法の工夫	
キジハタの生産と配布	安定した量産技術の開発	

4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	事業報告書
	日報 (必要随時)	○	水産種苗調査 (報告書)
管理運営会議 (現地、県庁等)	【特記事項等】	施設の修繕箇所を確認し、課題を整理した。	
現地調査 (随時 水産種苗調査及び 3 月に実施)	【指定管理者の意見】	修繕中も、効率的な種苗生産に取り組めるよう配慮を求める。	
	【県の対応】	指定管理者の意見を踏まえて、工事内容及び工程を設定した。	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
	県委託料 (決算額)	5期	R5	79,692		△4,109	種苗頒布 収入 (決算額)	5期	R5
R4			83,801	18,611	R4	185,656			75
R3			65,190	△24,001	R3	185,581			△13,442
4期平均 H28～R2		89,191	△3,955	4期平均 H28～R2		199,023		56,613	
3期平均 H23～H27		93,146	△31,840	3期平均 H23～H27		142,410		48,448	
2期平均 H20～H22		124,986	△5,672	2期平均 H20～H22		93,962		16,612	
1期平均 H17～H19		130,658	△21,574	1期平均 H17～H19		77,350		15,328	
H16 (導入前)		152,232	—	H16 (導入前)		62,022		—	

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R5 決算額	R4 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	79,692	83,801	△4,109	燃料価格高騰に伴う光熱費の価格上昇分の委託料の減
		種苗頒布収入	185,265	185,656	△391	三倍体カキ(コレクター)の生産不調による減
		その他収入	35,419	29,810	5,609	三倍体カキの生産不調に伴う生産安定化準備資金取崩による増
		計(A)	300,376	299,267	1,109	
	支出	人件費	111,580	112,780	△1,200	職員の配置換えによる減
		光熱水費	6,130	5,467	663	施設管理に係る光熱費の増
		設備等保守点検費	13,597	13,552	45	
		清掃・警備費等	660	660	0	
		施設維持修繕費	8,515	8,408	107	修繕箇所数の増
		事務局費	136	154	△18	
		種苗生産経費	159,713	158,201	1,512	種苗生産に係る餌料等の消耗品費の増
		その他	45	45	0	
	計(B)	300,376	299,267	1,109		
	収支①(A-B)		0	0	0	
	自主事業 (※)	収入(C)	0	0	0	
支出(D)		0	0	0		
収支②(C-D)		0	0	0		
合計収支(①+②)		0	0	0		

※ 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	漁業者ニーズ等の把握に努め、広島県種苗生産・配布要領に基づき、令和5年度の生産魚種、尾数、単価等を決定し、それに基づき、種苗生産を行った。	種苗生産配布検討会を開催するなど、漁業者ニーズを反映した種苗生産を実施している。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	魚類については、計画数量以上の生産ができたため、余剰種苗として積極的に販売した。	計画数量以上に生産された魚類は、余剰種苗として積極的に配布されており、栽培漁業の推進に貢献している。
施設の効用発揮	○業務の実施による、施設の利用促進	学生、会員及び一般の施設見学者に対して、栽培漁業センターを案内し、種苗生産・放流・資源管理についての説明・学習を行い、栽培漁業の普及啓発に努めた。 水産教室への種苗の提供を行った。	施設見学対応や水産教室への種苗提供を通じて、漁業への関心を高めることに寄与している。
	○施設の維持管理	施設が老朽化する中、安定的な種苗生産を行うため、生産設備等の保守点検を定期的に行い、随時修繕を実施した。	生産設備の保守・点検を行うとともに、適宜修繕を行うことで、安定的な種苗生産の実現に尽力している。
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	全職員が種苗生産、施設の修繕・整備、販売促進等すべての業務を担当できるように、オールラウンド型事務局体制の構築に努めた。	職員等の配置換えを行い、オールラウンド型事務局体制を図ることで、種苗生産業務及び施設管理業務について、効率的な体制となっている。
	○効率的な業務運営	種苗生産業務の時期的人役の的確な把握により、労務時間の短縮を図った。	種苗生産業務体制を把握し、適材適所の人員配置を図ることで労務環境の改善が図られている。
○収支の適正			
総括		各職員が業務の見直し、種苗の品質向上及び利用者ニーズの把握を行い、効果的な運営に取り組んだ。 当該施設の現状を再点検し、県とともに種苗生産能力を確保するため、老朽化している施設・生産設備の維持・管理に取り組んだ。	種苗生産の目標設定にあたっては、漁業者からの要望にも応えられる運営体制を整備するとともに、種苗生産にあたっては、試験研究機関とも連携し、生産改善に努めることで、安定生産に取り組んでいる。 また、栽培漁業については、漁業者及び他機関とも連携した取組を推進している。 生産の効率化を図るためには、老朽化している施設や生産設備の維持・管理が必要であり、必要に応じた施設修繕を実施している。

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和6年度)	○三倍体カキ種苗の安定生産に向けた技術開発に取り組む。 ○生産魚種の安定生産に向けた親魚養成技術や種苗生産技術の確立に取り組む。	○三倍体カキ種苗の安定生産に向けた技術開発は必要であり、試験研究機関と連携して技術支援を行う。 ○生産された種苗を用いた資源増大を図るため、放流後の生残率の向上に向けて、各魚種に応じた運搬方法や放流場所、放流手法の指導を行う。
中期的な対応	安定的な種苗生産を実施するため、施設の計画的な維持管理や機能強化により、効率的な生産を進める。	計画的な施設の改修・修繕に取り組むとともに、老朽化施設の長寿命化対策を行う。

1 施設の概要等

施設名	広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園（ひろしま遊学の森）		
所在地	広島市東区福田町 10166-2		
設置目的	○緑化に関する知識と技術の普及啓発 ○緑化の推進		
施設・設備	面積 124.97ha、管理事務所等(主要施設 4 棟)、遊歩道(12,000m)、駐車場(474 台)等		
指定管理者	6 期目	R4. 4. 1～R9. 3. 31	ひろしま遊学の森管理グループ
	5 期目	H29. 4. 1～R4. 3. 31	ひろしま遊学の森管理グループ
	4 期目	H28. 4. 1～H29. 3. 31	みずえ緑地(株)
	3 期目	H23. 4. 1～H28. 3. 31	みずえ緑地(株)
	2 期目	H20. 4. 1～H23. 3. 31	みずえ緑地(株)
	1 期目	H17. 4. 1～H20. 3. 31	みずえ緑地(株)

2 施設利用状況

利用状況	年度	目標値 [事業計画]	入園者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	6 期	R5	103,000 人	88,670 人	△18,217 人
R4		100,000 人	106,887 人	12,387 人	6,887 人(106.9%)
	5 期平均 H29～R3	98,000 人	94,500 人	1,165 人	△3,500 人(96.4%)
	4 期平均 H28	96,870 人	93,335 人	△4,195 人	△3,535 人(96.4%)
	3 期平均 H23～H27	96,870 人	97,530 人	△1,175 人	660 人(100.7%)
	2 期平均 H20～H22	93,900 人	98,705 人	4,769 人	4,805 人(105.1%)
	1 期平均 H17～H19	93,600 人	93,936 人	12,513 人	336 人(100.4%)
	H16 (導入前)	—	81,423 人	—	—
増減理由	○新型コロナウイルスによる行動制限が解除され、人の動きが分散されたことによる減 ○夏の猛暑に加えて R6. 3 月のサクラの開花時期が遅れたことなど気候の影響による減 ○G7 広島サミット開催に伴う臨時閉園が土日を含めて 5 日間あったことによる減				

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	利用者へのアンケート調査	施設利用者、研修会参加者等 749 人
	【主な意見】	【その対応状況】
	Instagram に投稿の植物について、園内のどこで見られるかを掲載してほしい	投稿文書に植物が見られる場所を記載することとした
	学習展示室の展示を復活させてほしい	現在、学習展示室を含む施設の長寿命化工事を実施しており、工事終了後、展示を再開する予定である

4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書
	月報	○ 月次業務報告書
	日報 (必要随時)	○ 施設の老朽・損傷状況等
管理運営会議 (1 回・現地)	【特記事項等】 広島市森林公園と共同で、外部の有識者を招いての活性化委員会を開催し、両園の運営について意見交換を行った。	
現地調査 (随時)	【指定管理者の意見】 広島市森林公園との連携の推進により、両園の利用促進を図る。 【県の対応】 指定管理者及び広島市と協議し、連携の取組を支援する。	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

年度	金額		対前年度増減		年度	金額		対前年度増減	
	6期	R5	62,015	△211		料金 収入 (決算額)	—	—	—
		R4	62,226	1,521					
5期平均 H29～R3			60,705	4,135					
4期	H28		56,570	820					
3期平均 H23～H27			55,750	2,500					
2期平均 H20～H22			53,250	△3,210					
1期平均 H17～H19			56,460	△5,794					
H16 (導入前)			62,254	—					

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R5 決算額	R4 決算額	前年度差	主な増減理由等
収 入	県委託料	62,015	62,226	△211	光熱水費の高騰に係る補填金額の減
	料金収入	0	0		
	その他収入	0	0		
	計(A)	62,015	62,226	△211	
支 出	人件費	27,154	28,981	△1,827	年度途中退職等による一時的な職員給与費の減
	光熱水費	2,144	2,278	△134	電気使用料の減
	設備等保守点検費 清掃・警備費等	7,631	7,755	△124	清掃費の減
	施設維持修繕費	4,586	3,514	1,072	電気設備部品購入、LED改修工事による増
	緑地管理費	9,822	8,233	1,589	資機材購入費の増
	事務局費	6,782	7,458	△676	ホームページ改修費用、印刷製本費用の減
	その他	3,907	4,022	△115	保険料等の減
	計(B)	62,026	62,241	△215	
収支①(A-B)		△11	△15	4	
自主 事業 (※ 2)	収入(C)	0	0	0	
	支出(D)	0	0	0	
	収支②(C-D)	0	0	0	
合計収支(①+②)		△11	△15	4	

※ 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	<p>設置目的である「緑に関する知識と技術の普及啓発」を図るため、自然豊かなフィールドを利用した自然探勝や草花の観察会、親子で楽しめる木工教室等を実施した。</p> <p>また、広島市森林公園との連携イベントとして、両園を繋ぐ道を散策するピクニックウォークを実施した。</p>	<p>多様な研修会の開催に加え、広島市森林公園との共催イベントを継続的に実施している。アンケートにおいても、「分かりやすかった」「勉強になった」など好評を得ている。</p>
	○業務の実施による、県民サービスの向上	<p>センターの魅力向上のため、湿地植物園への新たな植栽や、建物周辺への珍種のツツジの植栽、レストハウス周辺の草花の植え替え等を実施した。</p>	<p>展示植物の充実により園内の魅力が向上し、来園者が緑に親しめる環境づくりがなされているほか、季節ごとの草花の植え替えによりレストハウス周辺に憩いの空間を創出するなど、来園者の目を楽しませる工夫がなされている。</p>
	○業務の実施による、施設の利用促進	<p>ホームページを随時更新して内容の充実を図っているほか、開花情報の SNS への投稿を月 10 回のペースで行うなど、施設の利用促進に努めた。</p>	<p>SNS では見頃の植物の紹介を兼ねて豆知識を発信するなど、知識の普及に努めており、Instagram やエックス等のフォロワー数が年々増加するなど、成果がみられる。</p>
	○施設の維持管理	<p>毎日の警備、清掃に加え、法律及びマニュアルに定める規定回数の施設点検を実施し、必要に応じ修繕を行っている。また、適期に緑地管理を実施しているほか、来園者の安全を図るため、園内の危険木調査及び除去を実施している。</p>	<p>日常点検や施設点検をマニュアルに定めるとおりに行っており、必要箇所は直ちに修繕しているほか、園内の危険木調査及び除去を実施するなど、利用者の安全確保に努めている。</p>
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	<p>更なる魅力向上と業務の効率化を図るため、2社JVによる広島市森林公園との一体的な管理運営体制の強化に努めている。</p>	<p>2社JVの強みを生かし、各社の専門知識を有した職員を適材適所に配置することで、設備管理や緑化相談に適切に対応する体制が整っている。</p>
	○効率的な業務運営 ○収支の適正	<p>2社JVによる業務の効率化や、公園ボランティア等との協力体制を築くことで、施設の維持管理に係る経費の節減に努めている。</p>	<p>2社JVによる業務の効率化や、公園ボランティア等の協力により、指定管理料の範囲内で効率的な管理運営が行われている。</p>
総括		<p>センターの設置目的に即した多様な研修会等の開催や、花木の植栽等による魅力の向上に努め、利用者満足度において目標を達成することができた。</p> <p>今後、利用者数の目標を達成するため、植物園機能の再生や森づくり・道づくりなどを着実に実行するとともに、広島市森林公園との連携に係る課題の抽出や効果の検証を通じて、両園の更なる魅力の向上を図る必要がある。</p>	<p>来園者へのアンケートでは、来園の目的に対する満足度が 90.9%と高く、ニーズに沿った管理運営がなされていることが評価できる。</p> <p>次年度以降、利用者数の目標値を達成するためには、展示植物の充実や森林整備を進めるとともに、広島市森林公園との連携イベント等の企画によりファミリー層を呼び込むなど、利用者層を拡げていく必要がある。</p>

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和6年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和5年度に続き湿地植物園の植物管理と展示の充実を図り、人気のスポットに仕立てる。 ○ 広島市森林公園との共通名称である「ひろしま遊学の森」のホームページを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化に伴う電気設備の更新及び浄化水槽の更新を行う。 ○ 樹木の高齢化による樹勢の衰えや枯損が懸念されることから、病虫害対策や危険木伐倒を行う。
中期的な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設置目的に沿った植物園機能の再生を計画的に実施するとともに、利用者の安全に配慮した施設運営を行う。 ○ 広島市森林公園との連携体制の強化に向けた課題を整理し、今後の在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化している施設について、壁面改修や耐震工事により順次修繕する。 ○ 施設の魅力向上のため、学習展示館の展示内容等の検討を進める。